

民間稲作研究所20周年日本の稲作を守る会15周年記念の集い・シンポジウム報告  
—過去に学び・今を知り・未来を創る—

よつば生協 会長 富居登美子 (NPO 法人民間稲作研究所 理事)



代表の稲葉光國さんは有機農業を志して44年。NPO 法人民間稲作研究所を立ち上げて20年を迎え、全国各地から有機農業者が150名参加しました。

「田植え後、除草剤を使用しない。機械除草もしない農法を確立」「2交代掻きと深水管理で水田雑草の発芽生長の特性を科学的に解明し、その発生を耕種的方法で未然に防ぐものです。特に田植え後30日間は水田に入らないということが重要な技術」と話しています。

日本で類を見ないこの農法は、有機稲作は草取りが大変という今までの常識を覆しました。長年、生物多様性の研究として、野草、小動物の特性を見据えてきた成果です。よつば生協の田植え、稲刈り体験を10年間続けていますが、田植え後田んぼに入ることなく稲刈りをしています。私たちは実体験でこのやり方が成功していることをすでに実感しています。

よつば生協が有機米「身土不二」を扱うようになったのは1999年産米からです。産直委員が訪問し、産直だよりに掲載していますが、現在は成苗1本植えですが、当時は成苗2本植えでした。研究を重ねて重ねて、現在の農法をつくり出しています。2年間で米・麦・大豆の輪作をすることで、大豆の肥料としての有効活用をすすめています。この3年間でブータンでは除草剤を使わない米作りの基礎が定着しました。1年間に何度も訪問指導し、機械を持ち込み、また日本からボラテアも参加しました。



有機農業が、環境への負荷の軽減から、環境を良くする農業として、生物多様性を育む努力を強力に進めなければならない程、環境が悪化しています。よつば生協も農薬、化学肥料を使わない農業を共に進めていきたいと思

います。世界に誇れる稲作技術です。

— いのちが守られる日本へ — 川田龍平参議院議員

シンポジウムで薬害エイズの被害者として、19歳で実名を出して裁判を闘い、国の謝罪と和解を勝ち取った川田さんが講演。昨年は農林水産委員としてネオニコチノイド系農薬や除草剤グリホサート、遺伝子組み換え、ゲノム編集技術の問題を指摘し、国民の健康を守るための農業を訴えました。

国の情報隠蔽で治療のためアメリカの非加熱製剤を使い続けたことで、子供の時に感染し、現在も難病を抱えながら議員活動を続けています。お母さんと一緒に先頭に立って他の被害者のために闘い続けました。日本製の加熱製剤を使用した患者は薬害を受けませんでした。「いのちを守るこ



とは全人類共通のゴール国内の政治だけを良くすれば良いということではなく、地域経済も、医療も、環境も、教育、人類の前にある問題はすべて全て超党派で超国家で取り組んでいかなければならないと思います。」「食の安全議連」を立ち上げ命を守る活動をしていることにエールを送りたいと思います。



集会2日目は循環型有機農業の普及をめざしたキックオフ集会でガンバロウを3唱し、散会しました。

2020年 循環型有機農業ポイント研修のご案内  
 ー学校給食へ有機米・有機小麦・有機大豆を提供するためにー

**3月1日版・日程が変更になりました。ご注意ください**

2017年突然除草剤グリホサートの残留基準が大幅に緩和され、ほとんどの輸入小麦製品からグリホサートが検出されるようになってきました。大人の髪の毛からも検出されていますから学校給食に提供されるパンからも間違いなく検出されるものと思われます。未来ある子供たちが食べ続け、アレルギーや発達障害などに悩む姿を放置することは出来ません。

今や農薬を一切使用しない無農薬有機栽培の農産物を学校給食に提供したいという声が「千葉県いすみ市の有機米100%実現」を契機に全国で沸き起こっています。ちなみにヨーロッパや韓国では当たり前になってきました。

こうした要望に応えるために、当会の提案する2回代掻きと深水管理による抑草法で田植え後は一切田んぼに入らない有機稲作とイネ・麦・大豆の循環型有機農業に関するポイント研修を下記の通り実施致します。**既に申し込んだ方も3月25日までに再度申し込んで下さい。**

聞いただけ、読んただけでは習得できない民稲研抑草技術を下記の日程と場所で、圃場での実践を交えながら研修会を開催いたします。各会場とも受講料5,000円/1回です。研修時間は各会場とも午前10:00～午後5:00までの6時間です。

栽培マニュアルを教科書に、圃場の整備や育苗・代掻きによる抑草法など、実演を交えながら下記の日程で研修を行います。出席する予定の地域と日時を○で囲んでFAXにてお申し込みください。後日開催場所・日程など詳しい内容をお知らせいたします。

2020ポイント研修申込書（締切3月25日）

ご氏名		連絡先	携帯	
			メール アドレス	
ご住所				

実施計画（参加希望の日程を○で囲み、0285-53-1133までFAXでお申し込みください。）

	北海道	東北			関東		関西	研修内容
		岩手県	新潟県	福島県	栃木県	千葉県	滋賀県	
会場	北広島市土井農場	一ノ関市小島農場	新潟市上野農場	須賀川市J-RAP	上三川町技術支援センター	木更津市	草津パイオニアファーム	①生物多様性を育み抑草を成功させる土づくり・圃場整備と1回目代掻きの実際 ②種子の選抜とポット1粒播きによる育苗のポイント ③抑草を成功させる2回目代掻きの実際と田植の留意点 ④2回目代掻きの実際と田植の留意点((その2)) ⑤田植え後の水管理と肥培管理 ⑥生物多様性病害虫防除 ⑦麦跡の有機稲作 ⑧有機大豆の栽培上の留意点 ⑨麦・なたねの有機栽培 ⑩栽培成果・課題解決に関する意見交換
第1回	4/14	4/11	4/16	4/12	3/24・25	3/29	4/1	
第2回	6月上旬	6月上旬	6月上旬	5下旬	6月上旬	5月中旬	6月上旬	
第3回	6月30日	7月4日 東北地区現地研修会			6月26、27日 いすみ市学校給食と地域創成		6月中旬	
最終回	2021年2月20、21日 循環型有機農業で学校給食に有機農産物を一全国技術交流集会							

問い合わせ・申込先 Tel/fax 0285-53-1133  
 NPO 法人民間稲作研究所 担当 人見・國母・稲葉  
 栃木県河内郡上三川町鞆堂7番地

